

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 72

春の訪れ、ひな祭り

女の子の健やかな成長を願い
次代につなぐ桃の節句

(撮影 2025.3.2 芳川地区)

梓川地区福祉のつどいが3月1日(土)に梓川福祉センターで開催されました。

第1部は、松本市立病院の理学療法士小林大起さんを講師に「リラクゼーション」を行いました。自律神経についての講習や、イスに座ったままできる10種類のストレッチを実践し、参加者はすっきりとした表情を見せていました。

第2部は、梓川小学校6年4組制作の映画「八面大王の逆襲」とふるさとCM大賞受賞作品の上映を行いました。会場に集まった100人以上の観客は映画の世界に引き込まれていました。

梓川地区社会協会の内田副会長は「体操はぜひ自宅でも健康増進に活かしてほしい。映画はとても素晴らしい内容で、あっという間の1時間だった。主体性



▲梓川小学校6年4組制作映画



▲講師のかけ声とともにストレッチ

のある子ども達が梓川で育っていることを誇りに思う」と話してくれました。



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,832戸
人口	12,018人
男	5,977人
女	6,041人

(令和7年3.1現在)



信州梓川賞展

2月1日(土)から3月2日(日)に、梓川流域の自然や文化、行事を題材とした絵画の公募展「第24回信州梓川賞展」が、梓川アカデミア館で開催されました。

一般の部では72点、小中学生の部では775点の応募があり、最高賞の梓川賞には、豊嶋淳子さん(松本市)の「小灯がともし続けられる山里」が選ばれました。

松本市奈川の野麦街道沿い、旧入山宿の風景を描いた作品です。

審査員からは、「静かな懐かしさを感じる。人の営みが長く守られており、そういった願いが込められている作品だと感じた」と講評がありました。



▲小・中学生の部、最優秀賞「おもしろい」 笹本 琉生さん(田川小1年)



▲梓川賞を受賞した豊嶋さん



▲信濃家 中蔵さんの落語

今年、岩岡公民館では防災救命訓練、敬老会、クリスマス会などの行事を行いました。

防災救命訓練では、初期消火訓練・救急救命訓練を実施し、AED操作方法を梓川消防署員の方から指導いただきました。ダミー人形で心肺蘇生を行い、防災・救命への認識を高めることができました。

敬老会はコロナ禍でしばらく中止していましたが、今年は落語家を招いて開催し、楽しい一時を過ごしました。コロナ明けで様々な行事が再開され、地域の親睦も更に深まり活気ある岩岡町会です。

岩岡町内公民館行事

未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

第40回松本市公民館研究集会・令和6年度地域づくり市民活動研究集会

2月16日、本集会での気づきやつながりをまちづくりに生かすことを目的に、延べ330人の市民・関係者が参加その様子のいくつかを紹介します

全体会・パネルディスカッション

「地域が動き出す！自治を紡ぐ語り合いの実践から」をテーマに、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科の向井准教授が進行し、活動事例が発表されました。

元社会福祉協議会四賀地区センター課長の山岸さんから「住民同士が気楽に支えあえるお互いさまの人間関係構築のための講座を5年間実施・誰もが楽しく集える場所ふくふく亭エールを受講者が開設などの発表がありました。

笑顔での対話の継続が、本音を言いあえる関係につながると理解できました。



パネリスト3名による活動事例のプレゼンテーション



若い世代もエールに参加して話す機会が増えた



ふくふく亭エールでの風景

次に島内地区島高松町会の高山町会長から、「島高松町会未来づくり検討会」の設置と工夫を凝らしたグループ運用での課題検討・おらが町会の意識醸成を目指した町会だよりの毎月発行などの発表がありました。受け身の姿勢打開の努力が感じられました。

最後に、大野川小中学校地域学校協働本部の相馬委員から、市で初めての国型コミュニティ・スクール導入を受けて「学校登山の継承やアウトドアクラブ新設、学校音響機器の町会や環境協会との共同購入」などの学校運営協議会の活動

第1分科会 (59人参加)

単独避難所指定をうけている安原地区元原町会の地域防災の取り組み「誰でも開設できるよう避難所開設初動リーフレット作成・防災ワークショップを毎月開催」を野村町会長が発表しました。

10グループに分かれた参加者は、防災活動の目的は何か、自分ができることは何か、自分や自分の地区の強み・弱みは何かなど、お互いの考えを出し合いました。

コーディネーターの信州大学地域防災減災センター神田特任助教は「環境はそれぞれ違いますが、強みを伸ばし、弱みを改善していきましよう」と促しました。

第2分科会 (55人参加)

託児を兼ね、お菓子作り体験やお楽しみ会が行われる中、「地域は子育て応援団」について、庄内地区子ども会育成会ほか2団体が発表し、6班に分かれ、話し合いました。

第4分科会 (64人参加)

「みんなが集う場所をつくるには？」について、田川小学校6年2組のみなさんがこわく交流会を企画、手作りのなかよし双六やお茶の会を学



地域と学校の距離が近くなりました



子育ては全体の悩みであり課題だ

分かれ、話し合いました。

「子どもの人生で愛着を育てることに新鮮味、子育てにタイムリミットは？抱きしめればいい？園に任せれば大丈夫？子育ては皆でやる」など、正解・結論の出ない熱い語り合いの場となりました。

第6分科会 (36人参加)

「働きながらでもできる町会長・町会役員」町会の負担軽減・効率化について、島立地区町会連合会の浅野会長から、市の町会依頼業務棚卸し結果「計百件の内、6件削減・34件削減が改善要望中」と発表がありました。

町会連合会常任理事会のリモート開催や住民意向全戸アンケートなどの紹介もあり、環境変化を把握しながら改善推進中と理解できました。

次に、和地区西原町会の大谷情報部長から、町会活動用のアプリ「Jichikan」導入と施策の発表がありました。

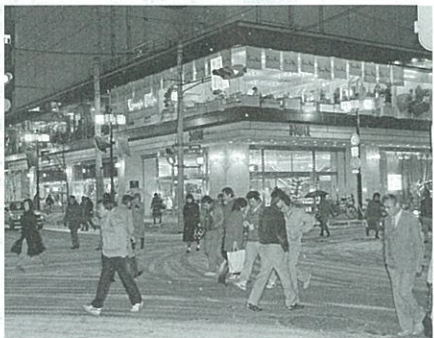
リアルタイムでの情報発信や安否確認などの町会課題が改善・更に住民間の良好なコミュニケーションにつながる、会合終了後も参加者から質問攻めとなる状況でした。



西原町会のアプリ活用紹介の動画はこちら

写真でつづる まつもと今昔⑥7

～きらめく街角が消えていく～



(撮影：1984.2)

スクランブル交差点を足早に歩く大勢の人たち。小雪が舞って道路が白くなっても、コートを着ていない人が何人もいる。いちばん寒い季節なのに不思議だ。1階の婦人服売り場や2階のカフェから流れ出した光が、雪と絡んで輪舞する。



(撮影：2025.3.4)

夕闇がビルの谷間に忍び寄る。通勤通学の帰りを急ぐ人々が行き交う時間帯。しかし昔に比べるとその姿は少ない。閉店セール赤い看板が、どこか寂し気に輝いていた。こども3月末で営業を終える。きらめく街角がまたひとつ消える。

デジタルマップを活用
小学生から高校生までが所属するまつもと子ども未来委員会は、グループに分かれて地域課題を学び議論し、課題解決をめざす会です。

視点
②まつもと子ども未来委員会
和田裕也さん
大きな地図愛で
地域に貢献！

大好きな地図
和田さんは春から大学で地理分野を専攻するそうです。



高校最後の仕事です

「房の有無などの情報を見るのができます。委員会の議論のために作成し、市民フォーラムでマップを利用し発表を行ったところ、教育委員会の提案で松本市のホームページ内への掲載が決まりました。」

趣味のマップ作りについて和田さんは「これからも好きなものをつくっていききたい」と話していました。また自身が作成した自習室をまとめた地図については「いろいろな

もともと趣味でやっていたというマップ作りは、市を走る路線バスの経路を手書きで作成したこともあり、市内にとどまらず、北海道の路線バスの経路も作成中です。

そんな地図愛が強い和田さんは、安原地区の歴史研究会から依頼を受け、地区の歴史文化財をデジタルマップにまとめる活動も行っています。こちらもネット上で閲覧できるように検討中です。



自習室の詳細な情報を見ることができます



和田さんが作成した地図は市ホームページのフリースペースコーナーから！

おこひる

生まれて初めて動物と暮らすことになった。保護猫の家族募集にご縁があり、姉妹の子猫二匹を迎えた。名前はおはぎとでん。ご飯や病院など、戸惑うことはばかり。子どもたちは交代で世話をした。猫は気まぐれで、あまり寄り添ってはいない。それでも私が落ち込んでいたある日、二匹が順番にそと膝に乗ってきたのである。ぎゅうぎゅうに座り、まるで励ますように寄り添う姿に胸がいっぱいになった。だが、そんな癒しもつかの間、猫たちは日々思わぬ行動を見せる。大事な書類やパソコンの上にとっかかり座り、夜は猛ダッシュ。テーブルを飛び越え、障子はビリビリ、深夜の大運動会。それでも、つい笑ってしまう。気がつけば、家族の笑顔が増え、猫の話で食卓もいつも以上に明るくなり、スマホの写真は猫だらけ。大事に育てたいし、ガレージで生まれたこの子たちが「ここにきてよかった」と思ってくれたら、これほど嬉しいことはない。



防災体験イベント

12月22日(日) 安曇野市のエルサあづみ野で安曇野市消防団、松本市消防団梓川ブロック、松本広域消防局が協力して防災体験イベントを行い、多くの親子連れが訪れました。火災を想定して煙の中を進む煙道体験、消火器体験、地震体験車など参加者は楽しみながら防災を学びました。



安曇野市消防団
応援キャラクターのシヨウ君

はつぴを着て記念撮影



女性部の紙芝居



梓川地区の三九郎

小正月の伝統行事「三九郎」が、梓川地区の34箇所で行われました。

角影台町会

1月11日(土)に今年一年の無病息災を願う三九郎が行われました。育成会が櫓の組み立てを行い、子どもたちは保護者と町内を回って注連縄などを集め飾り付けを行いました。三九郎の櫓に火が着けられ、火の勢いが落ち着くと繭玉などを焼いて賑わいました。今年も子どもたちの心に残る正月行事となりました。

大久保町会

1月11日(土)に三九郎が行われ、大久保グラウンドに未就学児から大人まで多くの人が集まりました。少子化や、火を燃やすという危険性を伴うため、大人の関わる部分も増えていますが、小学生とPTAが集めた松飾りやダルマを添えて高々と組まれた櫓を燃やし、豊作や無病息災を願いました。参加者は「子どもが少なくなっていく中でも、こうした昔からの地域行事がずっと続



炎に包まれるやぐら(大久保)



子どもたちが飾り付け(角影台)

新任分団長あいさつ



第39分団
松田 賢
分団長

本年度、松本市消防団第39分団の分団長に就任しました松田です。第39分団は、梓川東部に位置する横沢、氷室、岩岡の6町会を管轄しています。消防団員は、自身の仕事を持ちながらも地域の自主防災機能を果たすべく、日々尽力しています。定期的に市民防火の日広報や、消火活動、防災活動などに奮闘しています。近年は新たな担い手の確保が大きな課題となる中で、松本市消防団では、インスタグラムなどを活用し消防団活動の魅力を発信し、多くの方に活動を知っていただく広報にも力を入れています。近年の状況から、今後はより一層自然災害への備えや対応が求められます。自分たちの町は自分たちの手で守る意識の重要性も高まっています。地域の安心、安全を守る活動に皆様のより一層のご理解ご協力をお願いします。



新村地区の
紹介は
こちらから!



なぜか西新は存在しない 新村町会区割り図

高綱中学校の南に一の坪という小字があります。一の坪は条里の基準となる地点の名称で、律令制度のもとで行われた条里制(土地の区画制度)の名残の地名と思われる。数回にわたる発掘調査などで小字と条里制の起点が一致していることがわかっています。

松本平の中央に位置する新村地区は、七世紀ごろの条里制遺跡や、秋葉原や安塚など八世紀ごろの古墳群からも推測されるように、早くから開けた土地です。

歴史があるのに新村

『信濃史料』第二巻に記載の推古天皇3年(595)「四天王寺縁起」には「信濃国筑摩郡荒田郷五十畑」と記されていて、この記述が現在の新村であろうと推測されています。

条里制の名残 一の坪

再発見!!

まつもと地名がたり

10

新村地区

御伽草子に登場するものぐさ太郎の伝承地も存在する一方、学びの場松本大学もあります。



でいらぼっちゃん伝説もある火打岩

梓川工業団地の中に、火打岩(明神岩)と呼ばれる新村が管理している社があります。ここは、江戸末期には梓川の中州でした。この岩を境界にして、北は梓川・南は新村・西は波田とされていた場所です。この岩の先は新村の岩崎神社までつながっているという伝承があります。

梓川対岸にも新村がある



条里制の基準点とされていた

松本平の野鳥たち



ハイタカ (2016年1月松本市笹賀 写真提供:信州野鳥の会)
ハトよりやや大きく、尾は長めで翼も幅広い。一般的にワシやタカの仲間はメスがオスより大きい、ハイタカやオオタカでは特にはっきりしている。ハイタカのメスとオオタカのオスを見分けるのは難しい。
アルプス公園でも小鳥を追いかけて素早く飛んだり、日陰で静かに止まっている姿を見かけることもできる。

まつもと散歩

物語のつづきを考える
みんなハッピーエンドに
なるように...



(撮影: 2025.2.22 PARCO前)